

はにい

友達なんていない

平成29年8月24日

「もう少し、ふわっと打ち返してごらん」

バシッ。ボールが大きく逸れて飛んでいく。あまりにも強いボールで、先生も打ち返すことができない。

ある中学校の通級指導教室の昼休み。生徒3名と先生で、ダブルスの卓球勝負である。

「ちょっと強いなあ。相手が取れるように、下からふわっと打ってごらん」

「そう、そう。うまくなったね」

「強い、強い。もうちょっと優しく。そう、いいね」

先生に褒められて、女子生徒の顔が笑顔であふれていく。

この通級指導教室には、近隣の中学校から約70名の生徒が指導を受けており、今日はそのうち、3名の生徒が朝から登校している。

ここに入級している生徒たちは、在籍する中学校でも適切な配慮や指導方法の工夫により各教科の学習等を進めているが、1ヶ月に数時間、学習の仕方や行動のとり方、友達とのかかわり方など、障害による学習上または生活上の困難の改善・克服を目的とする特別な指導を、この教室で受けている。

「うちの通級指導教室では、学習の仕方や対人関係の育成、社会的スキル、相互性のあるコミュニケーション能力の向上、情緒の安定を図るための心理的不適応の改善を主な目的としています」

通級指導教室の主任の先生が熱く語る。

「先ほどの女子生徒は、対人関係がうまくつけれないんです。

午前中、教育相談をしたんですよ。そうしたら、泣きながら『友達なんていない』って言うんです。本当はみんなと仲良くしたいと強く思っているんですよね」

この学校の通級指導教室では、学習面や生活面の個別の課題を指導するだけでなく、集団でのソーシャルスキルトレーニング（SST）を大切にしている。昼休みの卓球も、友達との仲間づくりや、コミュニケーション能力を高めるための重要な学びの一つである。

「通級指導教室で学んだことが、在籍校で生かせることが一番大切だと思います」

子どもたちの多様な学びの場の充実が、子どもの成長を支えている。